

生きるために食うのか

食うために生きるのか

悩み多き腹ペコたぬきが 太鼓作りに命をかける！

作・演出・作曲／末永克行

振付／モトム

音楽／考

昔タヌキは とんがねた



●冒頭の音楽だけでもう胸がいっぱいになり、ストーリーも深いテーマだけどもとても楽しくてあったという間でした。●3歳の娘が見ることができるか不安でしたが、最後までくいいるように見ていました。初めての観劇がたまっ子座でよかった。●たぬきと仲間たちの命がけの生き方に気持ちが引き締まりました。一生懸命生きたいです。●まさに今、たくさんの心配や不安や悲しみを超えてつつみ込む作品。胸が熱くなりました。●いのちについて考えさせられ、その深さに感動しました。子どもと家族一緒に見られてよかった。たくさんの人に見てもらいたい、届けたい作品だと思いました。●平和のために何ができるか、舞台をやるしかない。そうです。（感想より）



制作にあたって

◆言葉と太鼓を持たない民族はないと言われるほど、世界中で多くの人々に親しまれてきた太鼓。そこに込められた祈りと願い、燃えたくるような命の鼓動。明るく力強く、深く染み入る響き。それは、樹をくり抜き皮を張って叩くという、ただそれだけの単純な楽器から生まれます。その不思議さがこの物語を生んだのかもしれない。

◆「あいつは何の役にたつのかねえ」と、齢八百年のけやきの爺さんも呆れるほどの、我がタヌキ。太鼓作りに突っ走る彼を見守るけやき山の住人たち。都帰りのキツネ、笑えないウシ：果たしてタヌキの太鼓はドンと鳴るか？ 40周年を迎えた座の原点というべき、末永克行の旗揚げ公演書き下ろし作品。◆今、地球上の誰もが互いを思い合い生き合う日々を切望しつつ、自然を我が物にし、破壊し、戦火で多くの人が命を失っている現実。どうしたら争いなんか止めて楽しく生きたるのか、心から笑いが合えるのか？ ◆生きる意味を問い続ける「真の文化芸術」の力を信じ、響き合う舞台と共に歩みを進めていきたいと念じています。

